

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0191300235		
法人名	株式会社創生事業団		
事業所名	グッドケア・山手(つつじ館)		
所在地	北広島市山手町6丁目4番		
自己評価作成日	令和 3年 2月 13日	評価結果市町村受理日	令和 3年4月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0191300235-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103
訪問調査日	令和 3年3月17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム理念の『地域の人々とのふれあいを大切にし、たくさんの笑顔と安らぎのある暮らしを、送っていただけるよう支援します。』を常に意識し入居者様には個々の生活リズムに合わせて過ごして頂けるよう支援しています。

コロナ禍で面会を中止していましたが、今年に入り職員の休憩室を開放し、家族様には検温・消毒・マスク着用での時間を15分とし、家族での時間を過ごして頂けるよう努めています。外出行事が行えないため、室内で季節ごとのレクリエーションを行い楽しんで頂いております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2020年(令和2年)6月に運営法人の交代があり、名称を「グループホームみのり山手」から「グループホームグッドケア・山手」に変更して利用者、職員を引継ぎ、新たな組織体制で継承した。当事業所は緑豊かな高台の住宅地に立地し、近くには公園や学校、歯科医院、整骨院、地域サポートセンター、ヘアサロン、コンビニなどがあり、バス停にも近く生活環境に恵まれている。木造2階建ての1階が「つつじ館」、2階が「かえで館」で、居間・食堂は一体的で、季節の飾り付けをして、家庭的な雰囲気の中で温かく、職員は利用者一人ひとりの健康状態を把握して、コロナ禍で外出ができないが、体操や足の運動、パズルなど、無理強いないようにして、機能訓練や「自発性」を引き出すケアに努めている。地域の人々とのふれあいを大切に、引き続き町内会に加入し、交流に努めることとしているが、コロナ禍により自粛している。運営法人が交代したが職員は変わらなかったため、利用者は安心して会話をしたり、本を読んだり、歌を歌ったり、テレビを見るなど思い思いに過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	○	↓該当するものに○印		○	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム理念「地域の人々とふれあいを大切に、たくさんの笑顔と安らぎのある暮らしを、送っていただけるよう支援します。」を理念に掲げ、日々の業務に取り組んでいます。	事業所理念「地域の人々とのふれあいを大切に、たくさんの笑顔と安らぎのある暮らしを、送っていただけるよう支援します。」を各ユニットに掲示し、朝の申し送り時に唱和(コロナ禍により中止)、日々のケアに活かしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	本年度はコロナ感染症の影響で町内会や地域交流の自粛となり行えていない。	地域の人々とのふれあいを大切に、引き続き町内会に加入し、交流に努めることとしているが、各行事がコロナ禍により中止となっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して認知症の人への理解と支援の内容を説明していましたが、現在は行えていません。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、毎月の行事や入居者様の様子などを報告し、皆様からの意見交換が出来る様、雰囲気作りを大事にしていましたが現在運営推進会議が行えていません。	町内会長、民生委員、地域包括支援センター職員、市職員等が参加して9月に開催している。事業引継ぎの経緯、コロナ感染予防対策、運営状況などを報告し、意見や助言を得てサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や地域包括支援センター、北広島グループホーム部会と電話連絡、メールでの情報交換を行っている。	コロナ禍のため、行政とは、電話やメールで報告、相談したり情報交換、指導を受け、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームでは定期的に勉強会などを開催し、身体拘束とは何かを常に意識し話あっている。又、外部研修などに積極的に参加し意識向上を計っています。	身体拘束防止会議を3カ月に1回定期的に開催し、資料を配布して内部研修を行い、外部研修に参加したりして理解を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は夜間のみ防犯のため施錠している。徘徊時はSOSネットワークで協力体制が出来ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止や身体拘束防止マニュアルがありスタッフがいつでも読めるようにしている。又ホームでは身体拘束防止研修が有り定期的に開催し虐待や身体拘束を起こさない環境整備に努めています。		

グッドケア・山手(つつじ館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について、研修や講演会に参加したり、研修報告のレポートを通して理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、その後も面会時に不安や疑問点を尋ね、信頼関係の構築に努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加を呼びかけ、意見や要望を聞いている。	日常の会話などから利用者の意向の把握に努め、コロナ禍で家族との面会は中止していたが、今年に入り感染防止に取組ながら職員の休憩室を開放して15分面会を行い(変異株ウイルスが確認されるまで現在は面会中止)、その際に家族の意見、要望を聞いている。又、家族には毎月「グッドケア通信」で利用者の様子(写真付き)を知らせ、電話等で意見・要望を聞いて運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コロナウイルスの為、集まる会議は今行っていないが、管理者から適宜、必要な情報は聞いている。個人面談も実施して意見や提案を聞き、運営に反映させている。	管理者は職員が意見・提案を言いやすい雰囲気、職員と面談したり、日常業務での話し合いや連絡ノート、朝の申し送り時に意見要望を話し合い運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人考課表で自己評価を行い管理者と面談を行っている。又職員調査表にて異動希望や総務人事に面談の希望の聞き取りを行い職場環境などの整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今年度はコロナの影響で法人内の研修を受ける機会はありませんでしたが、ホーム内研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	毎年同業者と職員の交流会を行っていたが、現在はコロナ禍のため中止している。		

グッドケア・山手(つつじ館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、本人と面談し、ご意向とご要望を確認した上で、スタッフに情報を周知し、環境に不安なく慣れて頂けるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に、ご家族様と連絡をとり、ご意向とご要望を確認した上で、スタッフに情報を周知している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、本人様・ご家族様に面談しご意向とご要望を確認しニーズの把握に努めている。ホームでは、訪問歯科・訪問リハビリ・訪問美容・外出時の介護タクシーなどの利用を希望により対応している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常的に生活のいろいろな場面で感謝の言葉を交わしあう関係が作られており、入居者様を巻き込んだ居心地の良い環境づくりを心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の電話連絡時や面会時は、普段の生活状況をお伝えしご要望等の確認を随時行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度はコロナ禍のため、「お楽しみ」の外出は自粛とした。面会は中止または時間を人数を制限しての実施となったが、できる限りの継続支援を行った。	コロナ禍で知人・友人の面会は中止しているが感染対策をして馴染みの訪問理容を受け入れている。近くのヘアサロンを利用して馴染みの場所との関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	体操やレクを一緒に行ったり、食事やお茶のみなどをしながら談笑出来る環境を整え、スタッフが仲介に入り、話題の提供などを行っている。		

グッドケア・山手(つつじ館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了したご家族様からの連絡にも、都度対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生き方や、趣味・嗜好などを会話の中で聞き取り、本人の希望に沿った暮らしが出来るよう努めている。	入居時の聞き取りから利用者の生活歴を把握し、日々の生活の中での会話や家族の情報から思いや意向を把握し、職員で共有し希望や意向に添うよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族・居宅介護支援事業所から情報提供していただいたり、ご本人と話をする中で聞き取り把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活のかかわりの中で身体状況の現状把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状況に応じプランの見直しを行っている。また、ご家族には面会時や電話連絡の際、要望などを都度確認し、カンファレンス時にスタッフ間で共有しプランに反映している。	利用者、家族の意向を反映させ、担当する職員の気づき等も参考に会議で話し合い、短気6か月、長期1年毎に現状に即した介護計画を作成し、家族の確認印を得ている。状況に変化がある時はその都度現状にあった介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録を日々記入しており、変化が見られるときは貴重な情報となっている。実践状況等はプランに反映できるかの情報となっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本年度はコロナ禍ということもあり、ニーズに対する多様な取り組みと言えるほどの物を実施することは難しい環境であったが、ホーム内のできる限りのことを行った。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	本年度はコロナ禍ということもあり、積極的に外出することもままならない状況であったが、近所の床屋を楽しみにされておられる入居者様もあり、床屋さんと連絡を取りながら実施した。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	輪厚三愛病院と藤川歯科の訪問診療を定期で受けている。また、個別に眼科やメンタルクリニックなどに必要な都度受診対応している。	利用者、家族の希望に添ったかかりつけ医に受診できるよう支援している。家族又は職員が付き添い、医師には利用者の症状や生活の様子などの情報を提供している。訪問医の往診や訪問看護師が利用者の健康管理を行っている。	

グッドケア・山手(つつじ館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に1回、看護師が来てくれるので入居者様の体調等に変化があれば報告し、健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に往診に来てくれる協力病院の医師や看護師と情報を共有して、日々の状態を伝えてスムーズな対応が出来るようにしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、家族様には重度化や終末期については説明している。	契約時に利用者、家族に「重度化・看取りに関する指針」に基づき説明し同意を得ている。医師が看取り介護の必要性があると判断した場合は、本人、家族、看護職員などと話し合い、希望に添えるよう支援することとしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成しておき、会議の時などに職員間でシュミレーションや、緊急時の優先順位などの対応の仕方について話し合いを行っています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、消防職員と連携して昼や夜、地震時など様々なシチュエーションを想定しての訓練を行っている。	年2回(夜間・日中)火災想定避難訓練を実施している。コロナ禍により消防職員立ち合いや地域住民の参加はない。火災発生対応マニュアル、地震対応、非常時対応マニュアルを作成し、食料、水、防寒衣、石油ストーブなどを備蓄している。	火災発生・地震対応などのマニュアルを作成しているが、令和元年7月、北海道保健福祉部「社会福祉施設等における非常災害対策計画策定の手引き(改訂版)」を参考に、再点検することを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の関わりにおいてその人の言動を汲み取り、その人らしい暮らしが送れるような対応をしている。	本人の気持ちを大切に、トイレなどの言葉かけに気をつけて、一人ひとりの気持ちを大切に、その人らしい生活ができるよう尊厳や誇りを損ねないケアに努めている。個人情報の書類などは書庫で管理し、プライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中で発せられる言葉に耳を傾け、個々の意思に添った対応が出来るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	居室でテレビを見たり横になって休まれたり、リビングで利用者同士が談笑するなど、その方の生活リズムに合わせて対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日の気温や気分によって過ごしやすい洋服や愛着のある洋服などを着られるような声掛けをしている。		

グッドケア・山手(つつじ館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養士が考えた献立提供している。入居者様の健康状態を把握して代替などを行い提供しています。	献立(土曜日から木曜日)は北海道事業部の管理栄養士が作成し、おかずは調理したものが宅配される。金曜日の献立は利用者の希望を取り入れて職員が作成し、調理している。職員と利用者が一緒に準備し、茶わんふきなどを行っている。季節に合わせた献立や、誕生日などの行事食は利用者の希望に合わせている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様に適している食事量の提供に心がけ、食事量や栄養の足りない利用者様へ栄養調整食品を併用し栄養バランスを保っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い清潔を保っています。入居者により必要時は歯科訪問を受け口腔ケアや治療を行っています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、時間毎にトイレ誘導を行い、排泄の失敗を減らす様にはしています。オムツ使用者はオムツ軽減を行うよう職員間で情報を共有しています。	排泄記録で個々の排泄パターンを把握し、表情や態度に気をつけながら適時にさりげなく小声で声かけトイレに誘導し排泄の自立に繋げている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前、午後にて体操を行い、その他にも個別で身体を動かして頂いています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の声掛けを行ないご本人の意思の確認後入浴していただいています。	週2回以上を基本に、その都度お湯を入れ替えて、入浴が楽しくなるよう入浴剤を使用したり職員と会話しながら楽しく入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者さま一人ひとりに適した時間で臥床して頂けるように配慮し安心して眠れるような環境作りと声掛けをおこなっています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師や訪問看護師や薬剤師と連携をとりながら服薬管理を行い情報共有を行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節ごとの行事を企画し入居者様と一緒に楽しんでいます。お誕生日にはバースデーケーキとプレゼントをご用意し喜んで頂いております。		

グッドケア・山手(つつじ館)

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナの為、外出の機会が少なくなっているが、定期的に、床屋へ出かけ地域の方と接しています。	コロナ禍で買い物、外食などの外出は基本的に自粛しているが、感染対策をして、近くのヘアサロンに出かけたりして、日常の生活に潤いと変化を提供するよう工夫している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人が金銭管理を行う事は難しい状況にあるが、ご本人一人一人の希望に沿って、必要な時には職員が代行して支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙などは本人の気持ちに添えるようにしている、ご家族様の希望もあり定期的に手紙を書いている方もおられます。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日、掃除機かけ、モップ掛けを行い、汚れが見られた時はその都度掃除し、入浴時、脱衣場にヒーターを入れ温度差が少なくなる様に配慮しています。	居間・食堂は一体的で明るく清潔で、パネルヒーター、加湿器を設置し、温・湿度・音など適正に管理され、利用者が職員と一緒に作った折り紙、利用者の作品などを飾り、子供の日、七夕、クリスマスなど季節に合わせた飾付けをして居心地よく過ごせるよう工夫している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室で自由に過ごしたり、フロアで皆さんと体操したり、歌を唄たい、気の合った人と会話をしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、ご家族様がご本人様の昔の写真や馴染の家具などを設置し、ご本人様も落ち着いて生活されています。	タンス、ベット、冷蔵庫、ソファなど使い慣れた家具や仏壇、趣味の琴を持ち込み、家族の写真などを飾って、家庭の延長の場として居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの暮らし方を見ながら、生活環境を考えて、生活しやすいようにしております。		